

平成18年度当初予算 重点プログラム別概要

くらし5：食の安全・安心確保プログラム

(主担当部局：農水商工部)

- (1) 食品衛生監視・指導推進事業
- (2) 安全な食品を生産する農畜水産物生産資材等監視事業
- (3) 自主衛生管理強化促進事業
- (4) 農畜水産物の安全安心確保に関する研究開発事業

<プログラムの事業費>

(単位：千円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	3か年計
当初計画	553,322	664,000	635,000	1,852,000程度
見直し後	570,450	368,307	716,126	1,654,883

注：「見直し後」の16年度は決算額、17年度は予算現額、18年度は当初予算要求額

<事業目標>

目標項目		平成16年度	平成17年度	平成18年度
(1) 自主衛生管理(HACCP手法)着手事業所数(か所数)	目標値	30か所	130か所	160か所
	実績値	102か所	130か所	
(2) 農畜水産物安全基準違反件数	目標値	8件	4件	0件
	実績値	2件	2件	
(3) HACCP方式自主管理導入品目数(累計)	目標値	23品目	30品目	38品目
	実績値	23品目	30品目	
(4) 技術開発等件数(累計)	目標値	3件	6件	13件
	実績値	4件	7件	

注：17年度実績値は11月末現在の見込み値

HACCP：原料が加工され製品になるまでの過程で起こりうる危険性をリストアップし、重要管理点によって処理方法を明確にしたもので、工程ごとの安全性をチェックし、記録に残す管理方式

<進捗状況(現状と課題)>

- ・ 食品製造業者への自主衛生管理(HACCP手法)の導入については、現在、豆腐製造業、麺類製造業等を中心に着手されており、今後とも関係団体と連携しながら進めていきます。
- ・ 農畜水産物の生産段階での監視指導については、農薬・肥料・動物用医薬品・飼料について販売店及び使用者に対する立入検査等計画的に実施しています。
- ・ 農畜林水産物の自主管理マニュアルの作成については、トマト、採卵鶏、ヒラタケ、マダイなど23品目について完成したほか水耕栽培、乾シイタケ等について進めています。しかし、作成されたマニュアルや自主管理の考え方の普及が課題となっています。

す。

- ・ 研究開発事業については、大半が研究途中ではあるものの概ね順調に推移しています。

<平成 18 年度の取組方向>

- ・ 消費者の食の安全に対する安心感を高めるため、事業者の自主管理の促進と監視・指導の充実を図ります。
- ・ 食品製造業者の自主衛生管理に対する意識も高まりつつあり、また、農産物を中心に HACCP の考え方を取り入れ、業種・品目ごとに作成された自主管理マニュアルの普及定着を進めます。

<主な事業>

食の安全食品衛生監視指導事業【18 年度当初予算額 47,196 千円】(事業(1)の一部)

食の安全・安心を確保するため、自主衛生管理の推進(HACCP 手法の普及及び導入促進)、危害分析によるランク分けによる食品関係施設の監視指導事業及び消費者等とのリスクコミュニケーションを行います。

農産物生産資材等監視事業【18 年度当初予算額 18,449 千円】(事業(2)の一部)

農業生産資材の適正な流通並びに使用の確保、農産物等に含まれる有害物質の吸収抑制技術を活用したリスク低減対策等を進めることにより、農産物の安全かつ安定的な供給を図ります。

安全・安心きのこづくり推進事業【18 年度当初予算額 4,803 千円】(事業(3)の一部)

HACCP 手法の考え方を取り入れた「三重県版きのこ品質・衛生管理マニュアル」を作成し、生産者へ普及するとともに、安全・安心な栽培システムで生産された県内産きのこ類の消費者への情報提供を支援します。

人と自然にやさしいみえの安心食材表示制度推進事業

【18 年度当初予算額 10,787 千円】(事業(3)の一部)

三重県産農産物や県内で製造・加工された食品について、事業者の食の安全・安心確保と環境負荷低減への積極的な取組を促し、消費者が安心して県産の食材を購入できるようにすることを目的に統一的な表示制度を推進します。

食品中残留農薬分析の迅速化に関する研究

【18 年度当初予算額 925 千円】(事業(4)の一部)

食品中の残留農薬分析について、対象項目数を拡大し、分析時間を短縮します。